

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1890100553		
法人名	社会福祉法人 新清会		
事業所名	二の丸苑 グループホーム あじさいユニット		
所在地	福井市大手2丁目21番地3		
自己評価作成日	令和 4年 8月 12日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/18/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 福井県社会福祉協議会
所在地	福井県福井市光陽2丁目3番22号
訪問調査日	令和 4年 8月 31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域で生活されている認知症を抱える高齢者の方、そのご家族の不安や負担を少しでも軽くできるように家族的な雰囲気の中で共同生活を行い、また適切なケアをすることにより、少しでも安心して健康にその方らしい生活が送れるよう支援していく。また、行事食などの特別食の提供も行い、御利用者の方の食べたいもの、季節を感じられるものを一緒に調理し提供させて頂いている。また、移動スーパーを利用し、買い物をして頂いている。立地もよく、県庁周辺の散歩などコロナ禍において何ができるのかを考え、できることを提供させて頂いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

福井県庁の北側に立地し歴史あふれる環境にある。令和3年8月に3ユニットに拡張しており、介護経験年数が少ない職員や無資格者もいるが、お互いに信頼・協力し合い自己研鑽しながら利用者の支援に努めている。介護計画や生活記録を全職員がパソコン入力し情報を共有し個別支援にあたっている。災害対策では消防署からの指導をもとに改めて戒めたり、今年実際に近所にボヤが発生した際は、地域住民も駆け付けするなど、安全や協力に対し地域との密接なつながりもあることを実体験している。コロナ禍で外出が難しいため、体力を維持するために屋内でラジオ体操やリハビリ体操などを積極的に取り入れている。また、鉄工所経営の家族から運ばれた手製の自転車こぎも利用して筋力低下の予防になっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づき、その方らしい生活とは何かについて話し合いの場を設け、支援している。	法人の苑訓をサービスの基本として毎日唱和している。事業所独自の理念を職員間で話し合う場を設け、ユニット毎の目標と個人目標を立てたが、まとまらず作成までには至っていない。	理念は常に立ち戻る根本的な考え方であり、再度職員間で話し合いの場を設け、事業所独自の理念を作成し職員間で共有と実践に繋げていくことを期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍もあり、感染状況を考慮しながら、美容室や移動販売の利用を提供している。	地域に根ざそうと意気込みを持っているが、コロナ禍で制限されている。コロナ禍前は近隣にある同法人の桜手苑と合同で地域住民と積極的に交流を行っていた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて活動報告を行っている。コロナ禍であり、地域とのつながりがなくなってきた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現状を説明し、その場での意見をサービス向上に活かしている。	同法人の桜手苑と合同の運営推進会議を2か月毎に土曜日の夕方に開催している。議事録は、詳細に記録しているが、家族への配布をしておらず、閲覧もできていない。	家族の参加を積極的に働きかけ、議事録の内容を配布し理解と支援を得ることが望ましい。また来所者が常時閲覧できる状態にすることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険課、地域包括ケア推進課などに相談をし、助言や指導を受けながらケアの向上に努めている。	地域包括支援センターと密に連絡を取り合い、相談事等に協力的に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束とは何かを委員会を通じて発信し、苑内研修や管理者等からの指導にて学び、理解し、他職員とも話し合いをしながら適切なケアを行っている。	身体拘束委員会を年6回開催し、ユニット毎に1名が参加している。会議録を回覧し、委員会主催の苑内研修後、全職員がレポートを提出し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法に関する苑内研修を受け、管理者等からの指導も行っている。また、委員会からの発信も行い、言葉遣いや身体的な虐待がないよう防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	苑内研修にて理解を深める時間を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては十分な時間を取り、ご利用者やご家族に理解をして頂けるよう、丁寧な対応を心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍であり、面談をする時間は設けられないが、差し入れなどの持参の時や電話連絡時に意見を伺うよう対応している。	管理者が事あるごとに家族に電話連絡し、その際に意見も聞き取っている。ガラス越しやオンラインでの面会も行っており、毎月のお便りでも家族に近況報告をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議にて、職員の意見を伺うようにしている。	月1回のユニット会議に向けて、職員は申し送りノート以外に個人手帳や自由に記入できる用紙を活用し、意見や日頃の気づきを記入している。年1回の苑長との面談もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修への参加や資格習得の機会を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	知識向上のため、苑内外の研修に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍にて外部の研修はオンラインの研修での対応をして参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の情報を職員間で共有し、関係性を保ちながら、入居者の話に耳を傾け、安心できる環境づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	些細な事でも相談して頂けるような関係性作りを心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者と家族の要望を把握し、職員同士で話し合いながら支援していけるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の言葉を聴き、やりたいことなどを一緒に行っていけるような関係の構築に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	支援内容の変更時にはご家族の意見も伺いながらより良いサービスを提供できるよう心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ感染に注意しながら馴染みの方とのガラス越しやオンラインでの面会や電話にて関りの継続に努めている。	コロナ禍で馴染みの関係の継続が難しい中、行きつけの美容院へ出かけたり、暑中見舞い・年賀状の作成・家族や友人への電話のやり取りを支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方同士でテーブルを囲んでいる。一日の中で状況変化のある方に関しては職員が間に入り対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	介護支援専門員が経過後もフォローしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の関りに注意し、ご利用者の希望や思いに耳を傾けるよう努めている。また、職員同士での情報の共有に努めている。	利用者の3分の1は自分の要望を言うことができ、食べ物の願望が多く特別食や出前に対応している。残りの3分の2の利用者には日頃の寄り添いで見えた表情で思いを汲み取り対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者、ご家族、介護支援専門員より以前からの情報やフェースシート、サマリーを基に職員間にて情報の共有をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のケアの中でその方の状況などを職員間で連携しながら現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員からの情報や意見、日々の記録などを基にユニット全員で話し合い、速やかな対応が出来るように努めている。	ソフトで管理し全職員がパソコン入力できる。介護計画に沿った記入を心がけるように指導し、毎月のモニタリングもケアマネジャーを交えて行い、随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子や職員の気づきは記録にて情報の共有に努めている。ご利用者の訴えなども記録に記載するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍もあり、柔軟な対応は困難であるが、散髪や移動販売にて事業所が対応していることがある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年もコロナ禍であり、地域との交流ができていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診はご家族へお願いしている。その際には当苑での様子や必要な情報は持参して頂き、適切な医療を受けられるよう支援している。	かかりつけ医の継続で基本家族が受診同行しており、コロナ禍で外出の楽しみにもなっている。医師と書面で情報交換している。2か所の医院からの往診が定期的であり、安心した医療を受けることができる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご利用者都の心身の変化は記録し、看護師や医療機関との情報を共有し、速やかな連携が取れるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時や入院時には病院関係者との情報交換を行い、今度の対応などを話し合える関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族と話し合いながらできることを職員間で話し合い、支援できるようにしている。	まだ看取りの経験はなく重度化した場合、医師や家族と相談し病院や特別養護老人ホームに移行している。現在は体制が不十分のためできていないが、今後は職員の理解や技術力を高め看取りに取組みたいと管理者は考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応マニュアルがあり、研修参加にて知識を深めている。また、コロナ感染状況を考慮しながら消防による救命救急講習会を実施する予定をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、コロナ感染状況を踏まえての避難訓練の実施を行っている。	年2回の夜間想定も含め、避難訓練を実施している。消防署よりスプリンクラーが稼働するため、消防車が到着するまでに、消火より火元から離れ、1か所に集合する様に指導を受け、避難訓練を改めて戒めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライベートなケアは個室にて対応し、尊厳を損ねないように努めている。	サービス向上委員会が勉強会を実施し、接遇マナーを学んでいる。ため口は禁止しているが方言を大切にし、一人ひとりに合った話し方をしている。男性職員も数名配置し、同性介助に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の押し付けにならないよう十分に配慮した声掛けを行い、自身で自己決定ができるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者本人様のペースに合わせて状況を確認しながら希望に添えるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	移動散髪にてカットやカラーリングをして頂き、対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎月、特別食やおやつ作りを行い、メニューの考案や調理をご利用者と一緒に行い、楽しんで頂けるよう努めている。	献立はスバル食品の外注で、ご飯はユニット毎に毎食炊いている。利用者は盛り付けや下膳等のできることを手伝っている。特別食・季節食・出前・おやつ作りなども組み込まれ利用者の楽しみになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの摂取量や形態に合わせ、調整指定提供しており、その方のペースで召し上がって頂いている。また、水分の摂取が苦手な方にはゼリー状にするなど工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご利用者の状態に応じ、声掛けや介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者の排泄パターンなど職員間で情報を共有し理解し、話し合いをして支援を行っている。	排泄チェックはパソコンに入力し、排泄パターンを把握し同性介助に努めている。夜間はポータブルトイレの使用や車椅子介助でトイレ誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動の促し、牛乳など乳製品の提供、また主治医への相談などにて支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回入浴を基本としている。同性介助や時間帯などご利用者一人一人に応じて対応している。	毎日お風呂を沸かし週2回入浴ができる。汗をかいた時などはシャワー浴もできる。体調の変化で入浴日の変更や同施設内の小規模多機能型居宅介護事業所の機械浴もでき、個々に合った支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	持参されて馴染みの寝具を使用している方もおられる。就寝時間もその方に合わせて支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服の情報は職員がいつでも確認できるようにしている。状態の変化による内服等の変更も職員間で必ず情報共有し対応している。疑問点は主治医にも確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者の好きなことや得意なことを把握し、日々の生活に取り入れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々に希望するようなことがあれば計画を立て、コロナの感染状況を踏まえながら、ドライブや近隣の散歩などにて対応している。	コロナ禍で外出は制限しているが、その日の天候や体調の状況を考慮し、ドライブや近隣を散歩している。ラジオ体操やリハビリ体操等を毎日取り入れ体力維持にも努めている。家族手製の自転車こぎも利用している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々に預り金があるため、職員付き添いの元にて使用できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者本人様が電話を希望されれば使用して頂いている。年賀状や暑中見舞いなどの書状でのやりとりもして頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じて頂けるようにユニット内での飾りつけや絵画や写真など工夫して、その都度模様替えを一緒に行っている。	共用の空間には季節を感じる手作りの作品や花を置いている。キッチンから美味しい匂いが漂うような設計になっており、テラスを利用してプランターに花も植えていることをタブレットで確認した。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにはソファを設置してある。ご利用者一人一人お好きな場所にて過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	特に制限はないため、自宅にて使用されていた馴染みのものを持参され、おいている方もおられる。	エアコン・ベッド・洗面所・タンスの設備があり、仏壇や衣装箱・テレビなどを持ち込み、家族写真や手作り作品を飾っている。オムツ類は居室に置かず、別の部屋に保管していることをタブレットの写真や聞き取りで確認した。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーであるが壁全体に手すりを設置してはならず、自立を促している。個室内の家具の配置もご利用者本人の使いやすいようにしている。		